阪神大震災の近畿地区医学図書館への影響

菅 修 一*

滋賀医科大学附属図書館

I. はじめに

1995年1月17日午前5時46分、兵庫県南部を中心に近畿地方を大地震が襲った。全国の医学図書館の皆様にご心配をおかけしていると思う。本誌近畿地区編集協力委員である筆者は、現地を訪れ、あるいは電話で得た近畿地区加盟医学図書館への地震による影響をお伝えする。

II. 兵庫県南部の医学図書館

被害の大きかったこの地域の二つの医学図書館に直接おもむき、被害をまのあたりにした。

1. 兵庫医科大学図書館

1月24日、西宮市武庫川の同館で近藤図書課長にお会いし、図書館の中をみた。

兵庫医科大学5号館の1階および2階にある同館の固定書架は将棋倒しの状態である(写真1)。書架と書架との間にしてある耐震用のつなぎ棒も曲っている(写真2)。単行本や製本雑誌が床に散乱している。書架の損傷が大きく使えなくなった書架も多い(写真3)。学生ボランティアの手助けで一部の製本雑誌は同一タイトルごとに積み上げられている。しかし、地震から一週間たって

も手のつけようのないところがほとんどである。

パソコンには異常がない。近藤課長はパソコン用機のキャスターが揺れを吸収したのではないかとおっしゃる。

復旧については、カレントの雑誌については、

写真1. 兵庫医科大学図書館書架
(兵庫医科大学近藤課長撮影)

写真2. 兵庫医科大学図書館書架

*Shuichi SUGA : 〒520-21 大津市瀬田月輪町。

(1995年1月27日 受理)

写真3. 兵庫医科大学図書館書架

1月末ないし2月に入った時点で利用できるようにし、開館をめざしているとのこと。製本雑誌や単行本については復旧まで約1カ月の予定だという。

近藤課長は、兵庫医科大学の所蔵雑誌であっても探し出せない場合もあり、相互貸借依頼をお願いすることもあり、全国の皆様によろしくお伝えください、とのことである。

なお、同館の職員は全員無事。ただし、神戸・明石方面の人が出勤できない状態である。

2. 神戸大学附属図書館医学部分館

1月25日、JR 神戸駅から徒歩15分神戸市中央区にある同館を訪れた。応対してくださったのは、窪田情報管理第四掛長と池川情報サービス第四掛長。みたこと、うかがったことは次のとおりである。

建物自体に損傷はなかったが、未製本雑誌用の雑誌架は倒れた(写真4)。固定書架の製本雑誌・単行本は各階ともほとんど落下し散乱している状態であった。雑誌架と同じ向きで本がならべてある集密電動書架は、開いていた部分の本が落下し散乱したが、ほかは大丈夫であった。固定書架は転倒していない。本のならぶ向きは、雑誌架に対して垂直の向きである。また、固定書架は天井に対しても固定されていた(写真5および写真6)。

写真4. 神戸大学附属図書館医学部分館雑誌架
(神戸大学池川掛長撮影)

写真5. 神戸大学附属図書館医学部分館固定書架

写真6. 神戸大学附属図書館医学部分館固定書架

復旧作業は、1月17日職員2人が来たがとも手がつけられず、1月19日出てきても動けなかった。1月23日になってから手をつけだしたそうである。筆者が訪れた1月25日には既に雑誌架は立て直され、1階固定書架の散乱した製本雑誌を元に戻す作業が行われていた。附属図書館本館からの連絡もあり、1月25日には事務室を使える状態にし、学生の登校する1月30日には閲覧席を使えるようにし、書庫は3週間をめぐり元に戻していくとのことであった。閲覧席については文部省からの要請で、被災した受験生も利用できるようにするとのことであった。

なお、職員は全員無事であり、電算関係も大丈夫とのことである。

Ⅲ. 他の近畿地区加盟館についての情報

1月24日、近畿大学医学部図書館の吉富さんの協力もえて、電話で情報を収集した。大阪市立大学附属図書館医学部分館と塩野義製薬が特に被害が大きかった。

1. 大阪市立大学附属図書館医学部分館

1970年までの洋雑誌のうちA～Jの部分を受納してあるフロアの書架が将棋倒しになり書庫の中に入ることもできない。業者も手がまわらず、復旧の見通しは立っていない。

1月17日は開館したが夕方5時で閉館した。

2. 塩野義製薬株式会社研究所図書室

大阪市福島区の同図書室においては、固定のスチール書架が全部斜めに曲った。今は、曲ったまままで使っているが、まっすぐに直す予定。集密電動書架は最初は動かなかったが、本を一部取り出して動くようになった。

豊中にある新薬研究所はもっとひどい。スチール書架は長方形がひし形になるほどに曲っており、

本を取り出せない場合もある。書架を入れ替える予定。相互貸借依頼を受けても、本の取り出し不可能なものは、その旨伝え謝絶している。コンピュータの被害はなかった。

3. 田附興風会医学研究所図書室

めだった被害はないが、尼崎の看護婦寮にある1985年までの雑誌の書庫が手のつけられない状態である。

4. 大阪歯科大学図書館

片づけに丸一日かかる程の図書の散乱があった。4～5冊の図書の破損。書架の転倒等はない。書庫内にヒビ割れ生じる。1月17日と1月18日午前中は休館した。

5. 近畿大学医学部図書館

3層構造の最上階（2階閲覧室）で本の落下がめだった。東西に揺れたため、その方向に納めてあった参考図書が全て床上に散乱したが、書架の転倒はなかった。建物は外観上めだった損傷はない。1月17日は通常どおり開館。

6. 大阪大学附属図書館生命科学分館

7000冊強の本が落下し散乱した。書架でいびつになったものがある。電動書架でねじれが生じたものがあるが、動かせてはいる。1月17日は本の散乱とその復旧のため、また職員確保できず臨時休館した。

7. 大阪医科大学図書館

開架図書の製本雑誌、単行本が300冊、床に放り出される。4～5冊の古い単行本が表紙破損し修理が必要。1月17日は落ちた本の整理と人手が集まらないため臨時閉館した。

8. 関西医科大学附属図書館

利用者に対する直接被害はない。止めの甘かった書架の転倒はあったが、閲覧室内ではない。1月17日は午後8時までの通常開館は行ったが、10時までの無人開館と翌朝6時から9時までの無人開館は中止した。

奈良・和歌山・京都・滋賀にある医図協加盟各館では、多少の本の落下・ガラスのヒビ割れを伝えるところがあるが、大きな被害はなかった。

IV. 病院図書室関連の情報

1月26日、星ヶ丘厚生年金病院の首藤さんに電話でうかがった。間接情報も多いがと念を押されたが、次のような情報をえた。

神戸方面のほか、大阪市北西部の病院図書室も固定書架が倒れたりして被害が大きい（福島区大阪厚生年金病院、西淀川区西淀病院、西区日生病院、北区住友病院等）。西宮市立中央病院では、移動書架のレールが浮き上がり業者が修理した。また、関西学院大学の学生ボランティアが書架を

立て直してくれた、とのことである。

病院図書室職員は、診療録管理業務を兼務する人も多く、カルテの復旧が先で図書室の復旧まで手がまわらない所が多い。病院の種々の仕事の復旧の手伝いに忙しいようで、連絡もままならない。図書室は一人職場が多く、復旧には時間がかかると思われる。

近畿病院図書室協議会ではFAXで被害調査中である。後日の報告を待ちたい。

V. おわりに

被害の大きい図書館の皆様には復旧へ向けて、肉体的精神的にたいへんである。今回は、地震発生が早朝であり、今のところ利用者への被害は聞いていないが、重い製本雑誌が頭上に落ち、書架が倒れてくることを考えると恐しい。図書館設備の安全面の再検討が必要である。無人開館が一部で行われているが、非常時の安全性を見直す必要がある。